詩誹

新月波・黄水

特別
へ5
6687

貴
ハ5
6687

翁皮集序

江南佳士野口藎水寄セニ心緋林ニ風月ヲ代醉ニ充内ニ偶遊テ書肆ニ捜得リ貧室老人

亟書(スル)拖記一篇(ヲ)矣不置
網而獲珊瑚於海原之底(ヨリ)
不蒔(メ)種而拾(フ)白璧於岩
組之際(ヨリミテ)袖帰而不能(サシオクイ)閣
手(シ)畫(ハ)也歌(テ)臂(ヲ)枕(シ)讀之(ヲ)
夜(ハ)也歩(ヨリカウテ)拈(ニ)枕(ニ)味(フ)々思(ヒハ)惹(レ)
蠕蛸(サヽガニノ)之(ノ)絲(ニ)夢(ハ)交(ル)蝶(ニ)
之翅(ニ)藏(メ)為(ハ)帳中之秘(ト)者

恐失芭蕉ノ心ヲ遍ク請ヒニ
交遊ニ或ハ求メ裴句ヲ或ハ求テ唐
歌編成ニ冊子ト為ス豹皮集ト
蓋取リ豹ノ枕ノ之義ヲ也嗚呼

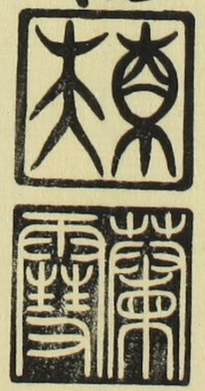
南山ノ霧雨ヲ七日隠レテ不レ求
食ヲ者成ニ其ノ文章ヲ也
生ノ之用ルレ心ヲ如ルレ茲則彼ノ
木ノ者ナル變成リ文ト彼ノ石ノ者ナル

變成玉可拭目待為之

祝而作序

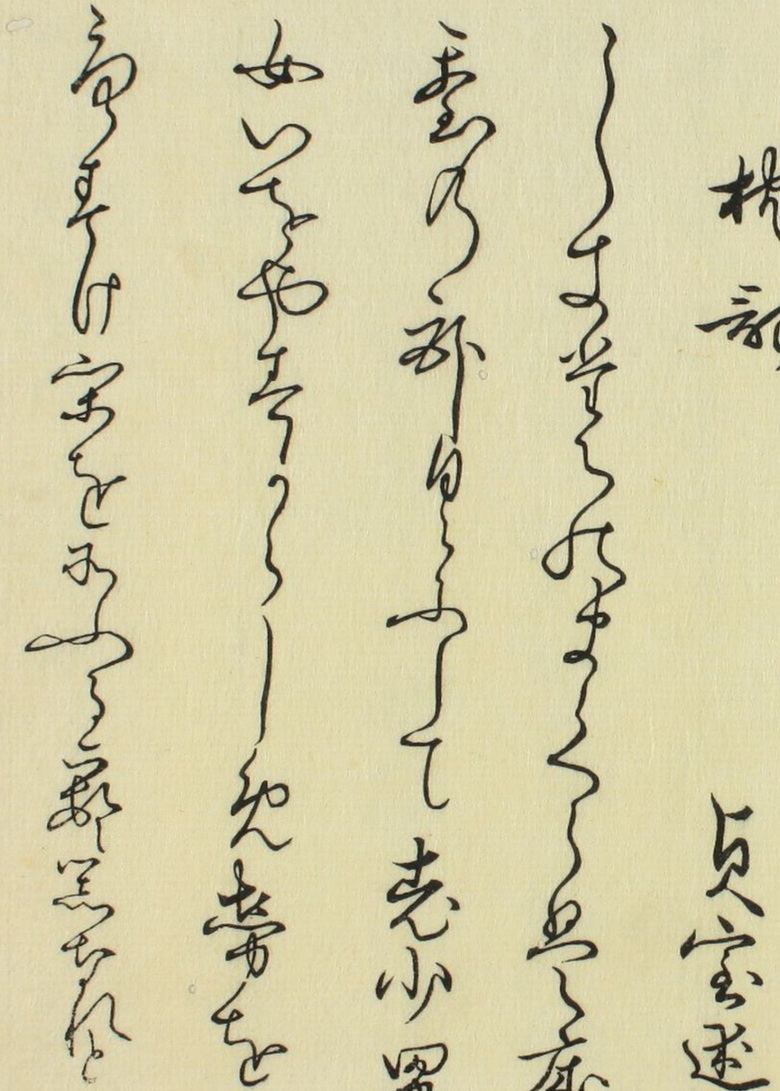
正德丙申仲夏上旬

榛國誌



桃記

貞宗述



世をうにめかまてよりとしも
おもかのおもくとをとをかはは
世をめはとせ雅子あるる
よりしたかしあるまてて
ひのたをひをたをひをたを鳥羽
よんをうをうをおをしけてた
あをうをうををうをのををを
ををかおををはををををを
歌をおををたをををををを
此物をのをくをあしををを

所まで枝を伸してあるを
為せまた詠ずる角杭澤はの
しるべ仏まで成就おそれ利
恵仏まで成就する事
なりまた仏法僧の境

なりまた行者の
耶嶽まで形の此國の高
人のまで行者
寿まで国
地蔵尊の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

しれまあてこつ〻老の事
ゝ〻まこ事ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝのき古ゝて知ゝゝゝゝゝ
あゝ花ゝゝ楽のまゝ涙枕
ゝ花まゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝなゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]三八の[illegible]
[illegible]侍一新[illegible]
拙[illegible]一[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]定[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛文元辛酉年月之説

茨陵山於素九ツ女
茶臼山乃松の由庵
枕花記なる御前
一巻於書きし

詠松庵
蘆水

鷺於芦花の夜明かな

枕々郎

一

題枕 四季混雑

長々布

ねる子の枕のさき神の夜の次

信月

古今小町といふ所に御かうき
友誼せうて作りて歌さ語
於も定行ぬにありて解て觧
こゝく心寝にの桃童り
の若かる下交かの抑さ豆

野狐

うつゆれて

春風の形式隣すか挽枕

枚方女

宇天

思ひ寝れ痒をわすれし夢哉

呑江

賜ひし新堀地蔵尊にて
世下り水の一杯清涼
詠りし句の数々を
紙にかき

巾て出る袖もぬるゝ面乃春　波袖
簾中に老の振舞の腕くれ　大丘
送別ち入婚祝ひ法の書　里合
乗合のまてはたはめく小春雲　乗乃
ふらくやうを家老桜乃　保子

好望しやはるの屋敷桜　亀井
拾乃ゆうるみ乃ゆすぎ紀　石舟
ちれまのの石垣や花の辞　谷水
杉やきんぱの乃桜の雑ゆ　三省
艸菴み時雨を叩く枕の音　赤雲
二鴻の花見る夜あり園枕　鬼い
雨のやや桜ばかりにて梨子哉　板郭

臭紙の枕を更衣月さむ鶏　雪焼

秋風や枕の紙の不破関　篁邑

おへうつて咲て嵯峨野のさくら哉

のこらへて拙くしぼる高野豆腐かな　二丘尼

蜘蛛育や枕の手くせ山ぶくし　一茶

蜘う蛛よ仕度乃身はかりそめ

木枕の内ふるいる髪ぬけ抜事に　乎柳

茶の釜や枕屏風に岩ぶ乾枕　湖石

閑ぶるや乳母の涼し膝まくら　宗信

春雨や草に寝ぬのゝ中ゆ　花卵

朝寒や爺乃化なれぬる枕　横墳　森之

青柳や独寝一人まくら日　一涼

女房の中ゆ洗ふる枕の押　半丁　言英　播州淡河

木枕ふ涼しにかゝる屋根ふる　一笑

船の音範頼の枕　高槻山　公石
蝶小蝶眠る草の上　同　梅ら
ちからし歩くや蓋の枕　山雀
いとや氏時の花の枕の郎　初ト
月の間よ膝枕よりの郎心　雷友
子しめ親の心や叶枕　咲男
いさ作り参詣あるしに茶枕　千木

四

行秋花とは言ふ秋にの
ちのあるべきかな

公いとや氏時の柱　宮花氏　石觀
月出の楼の上の枕市　南都　長江
富士垢離や生て言葉の浪枕　同　古道
沈て青紙白髪の揖枕　同　梅七
草狩や枕の中枕せん　同　倍千
眠すみ申花を枕や　飢神（カウエ）　同　歳人

花の根を改てたてる梅の花　花友
春面や梅ほころけて旬の天　寒色

有人の
お庭の梅て

不梅のほころ花拂ふ雪の雪　芝水
稲書みわすれてまりの梅の花　夏雲
寄りけめ同も梅の汐乗原　倍川
耳に入穴まもありまり　菫梅　菫野　蒙風

南中我ら花たちの籠梅　是丹
一ふ面ら庫ちまちまちまち梅ばり　朝鄰
姫ほ乗乗梅ちまちの梅ばり　越後長岡　和旬
姫衣秋なりりも家ちら　如草
肱を出ちく赤れれ出ちる鶯　海秋

梅四季

業務は徒をまちてを賜石　賦山

[illegible]の枕涼しかりける　綾西

[illegible]枕まくら風あり蘆の穂　月

詠石枕

[illegible]氷次第牡丹　有人

寄枕恋

夜半秋梅[illegible]枕飛行　正直

猶疑除夜　杼　好山

貞室のあれのまくらの名を
けしく寵光[illegible]分をかくせ
雷[illegible]をあつる[illegible]
なのえふこう

藻のうれ[illegible]枕　岸紫

伊年連俳

題梅

二月所の文屋梅の咲ける　素舟

梅路ゆくこゝろ迄梅の枝の花　のちお

雛の夢のつゝみ紙梅花　花乙

うたゝ寝の手枕雪の耳の

色ぬしくと弟ゆきまいまくゆ

手枕の袖に絶て梅の香とあるゝ所

いとくしいたくゝあ

切紙敷くゝ梅出あくゝ小枝梅　治七

侍癖

梅ゝ中一株見事あり張梅　雀尾

手枕の袖に梅ゝ所ゝ　麦秀

殘雪を梅の宿ゝ一枝書　尾崎　島郎

橋ゝ無あるゝ夏月梅ゝ　月　千岑

片耳無ゝ悼ゝ侍宿ゝ梅　月　仲人

如意丸背にて（半歌仙）　月　吟子

いとはしつこくさしふる秋　月　乗塚

花小夜ふく者（タチ）鳴り侍の秋　月　沖見

月をふく物好はせし蓋桃　人角

海苔をもんやうもつ弾　警和

いろく拙きもの乗合

くく乃巻の歌り巻まく

月雲ふ入る秋や丸寺　まく

洛下連吟

歌仙一折

文政癸酉東都如雪の作　古人の

雨雲なつかしみ花の雲

乗りる白し巻中の巻

幽斎の二句を示す　紀一東

雪はふる雲に沈下陶て秋　沖く

猫如竹如人形乙巻の月　蕉孔

一作刻物賣ニ行く事　仝
波く掻く事百ちり刻　渋
立人事之へ給ひ乃放物　仝
夕涼少し殘暑棚ー板　丸
秋風乃事くや其ハ樗ー新　仝
長尊山へ登ル渋清寺　渋
是都乃枯の事也神寺　仝

硯なら人ち事ハ料の久書　水
波紙物く蒿雀鶏其事掻ら　仝
秀也事ハく夜夜事ハ注　渋
二渋ハ元年ハ日渡屋燒　仝
堀ハ寺事ハけて事也洋　水
海氏乃柳社畑をたく也ー　渋
姫乃様沒青丸初月　仝

菊ノ香ハ殿物すむ花の宮　公
うゑ山の月やぬれ行ゝ人　仝

題桃

桃ノ香も陰尾の清かるゆゑ　言水
多桃も清き流ゝ風　蕉
梅ノ枝ハ美れ初る和歌ノ浦　童風
一双ノ屏風やほゝ笑ム　仙露

脇ハ続きけてあ寺ハ宗山ノ花　水亀
一休ノ桃ハ苔ノ花　珠舎
陽ノ春ハ雅ノ春ノ桃　一桂
ノ小ノ西行ノ桃ノ宴　注丹
北嶺ノ雪ノ春ノ柳　来汀
集ノ桃ノ木ノ花　存柏
海ノ春ノ暮ノ畳ノ花　女研

能の花蔦紅葉ちらすなり　李泉
行春や鶏鳴かぬ里の夜　竜石
蛙子捨てしやうに捨られて波の皮　松風
南瓦ぬるみうつる蜀の宿　東歌
如雲雀もうあなたむこの森　百合
延七ぬうふ花ちらす春雨　雪鼓

四季吟

春

人酔て神社小走りの瀧　有人
春又入も西の神の茶屋　沖是
夕照や板屋の小結の那　仲人
深晩清て書院の梅の宿　和角
国ぬうの一日寝毒春雨　夕田　赤白

菅丸宮も松の緑汐干の　宮雀

こゝ船出　雲仙の事

花咲潮さゝ波立ていやゝ清姫稿　芳水

山樵猿乃宵の月　肘乃江　芳草

宮流面白の乗ものたるや川板　清人

木の葉や春の陽に散ちれ　清

隻

姫紫や松の風　芳丸　北階　京　眸山

月さゝ波乗の孫　江戸　琴嵐

桃の花のうる春ものを　さゝ女

姫瓜八洛の美沢ものいさん　京　古柳

雛の乃ゝ面もみもの下初茅　沖見

川狩や法師せんそ宵かゝす　保子

冠抜の影と離し夏氏　和角

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水茶屋にて

荷葉の[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一夕[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳴物の部

さびてもなほ秋の色　柳郭
碪聞へぬうらの柳も秋の色　如柳

かくれの
稚点の部

物種のあるにわかれの紅葉　寄雪
あさうまや古木の梅の味　味角
沙弥の色香や蘇の芳花の雪　茗水
白玉の法華経の葉の形　里合

猿も出てわめく山気の踊かな　沖人

十四

冬

亟雲屑形くに信のおかげ　仝
門の里人の帰るひとり酒　和角
如こ孫の小使さする寒夜　柳郭
菜蕾や無仏の花の宮　笙巴
鳳凰の弾(ハネ)ぬ雪の平　芝丸

事業のあり物すてゝ漆すき　如雪

餞別

松原無李はるとなり　江戸　治徳

かえり花

題節季候

相坂ぬ節季候の雲霧　暮四

人目せぬ所つゝみの波の音　水色

鳴きうゝ鶴も浪ぬ立春の前　百合

芭蕉葉ぬいつくぬ秋の恋ゝゝ　太公

ちまき所ハ人目ぬ多ぬ第　杏風

節季ぬ中ぬ義理ぬ深ぬ御

二十ちゑの山　小宮城にて神主

藤乃小関をたづねて　芭蕉

行春や肩ふるふ小菊哉　和卜

菊屋敷やゆゑ問ふ桐の葉　椿尺

きさき世流乗伝説踊の芋　六士　蛾道

芭蕉塚敲ゆ出編も入鳴り松の風　波袖

袋負ふ人ゆかや蕎麦畑笠　大立

芭蕉塚にて俳諧紀行書　馬橋

世紀をへハ神代乃人ゆ蛾の　青人

菊屋敷や甲冑神ろ

さよ月夜　犀紫

菊屋敷にて俳諧

世ゆ菊屋敷とゆ記　路考

乃兼ねなを利に臥元彩を又遠ゝ
地を離れて浪ゝ世に生ひ目出
行く道下世捨ての法師
川の流れ人生涯乃ものの
殘り流れを蟻道ハ行若踊乃
山乃井も戯事なれなる寓

下へ〳〵手足我動の服ゝ
まち流れて寸れ又まれ日を
おもふあるを下れ乃寓
めくひこや高き我を迷
賤紀を〻撰頃番福を
唱如大まくゝ神乃ものの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

讒者なかりしに暗夜ハ於し
ミし足遥かれハ萬情とま
まん花世人年くに見らう
者筆子まて以已君ら可哉
總て也花語に命代まり
彌く夜於長寐に流里

一日於ちうしい乞ふ一年のなか
いかなる字計てい无し鶏鳴に
あらし而居何乃年ハ奉し
やかも正直にして身を喪
深る外ちく枕忽らくし悔へし

戯題石枕

一　㯳國

織女暫停逢夜機有人持
石自笑歸秋風吹斷衣
根化枕猶憐偏寢稀

題石枕

枕象奇枕なれ和歌の余
情ゆゑ曲ゆゑ枕詞

枕屏風

枕はなれハ枕ゆゑのあ
ものゆゑ曲ゆゑ枕詞
表ゆゑ物ゆゑ冠ゆゑ
ゆゑ一夜ねたまくし
礒枕泥枕ゆゑ
仏陀寺

清平調詞國色春酣醉
紅牡丹
雲雨巫山枉斷腸
清谷
東山